

令和5年度施政方針

2月17日に、令和5年第1回市議会定例会の冒頭、白井亨市長が、施政方針演説を行い、令和5年度を迎えるにあたっての決意を表明しました。ここにその要旨をご紹介します。なお、全文は、

企画政策課で御覧いただけるほか、市ホームページで公開しています。
☑企画政策課企画政策係（市役所本庁舎2階 ☎042-387-9800）



1 はじめに

私は選挙の際に「みんなであつこう。いろいろが、彩るまち」をスローガンとしました。市政の主役は市民であり、市民と行政がお互いの役割に基づき、協力して、みんなであつこうを良くしていくという、私の市政運営に対する思いを表した言葉です。令和5年度は「耕して、種をまく年」と設定し、市政運営に取り組みます。

2 市政運営の基本理念

【子育てと教育】

本市が地域みんな子育て・子育てを応援するまちとして認知され、まちの特徴となるよう、子育てをする人が孤立せず、子どもたちがそれぞれの居場所を持ち、妊娠前、妊娠中、出産後から継続した子育て支援を充実させていきます。学童期においては、専門性に裏付けられた就学相談の充実、教育支援センター設置等を核として、個性や特性を尊重し、みんなを育む教育を充実させていきます。

【福祉と共生】

住み慣れた地域で在宅の生活を継続できる地域共生のまちを目指すため、更なる地域包括ケアの充実を図ります。介護者の支援や貧困対策など、近年顕在化している課題へも取り組んでいきます。

【にぎわい】

店舗・商店街や公園、公共施設などを拠点とし、にぎわいの場として活用することで、人や関係団体が出会い、つながり、活気や楽しさを感じ

じられるまちづくりを進めます。東小金井エリアを中心とした創業・起業支援や、中間支援の機能は、市のにぎわいを生み出す原動力ともなっています。市の地域資源である人々をつなげ、より大きな市の魅力を創出していきます。

【多様性】

私は、多様性・ジェンダー平等を大切に、違いを力に変えるまちをめざし、その理解の促進、推進を政策の基本的な姿勢とします。市組織においては政策・方針決定過程への女性の参画を拡大し、ジェンダー平等を推進します。

3 4つの重要課題

【新型コロナウイルス感染症と物価高騰対策】

市では、国や東京都の感染症対策では行き渡らない部分に対し、地域の実情に応じた、きめ細やかな対策を講じていきます。物価高騰対策として、国や東京都の財政支援や市独自財源を有効に活用し、引き続き経済支援を行っていきます。

【保育の質の向上と市立保育園の在り方の検討】

私は、市全体の保育の質を高める仕組みづくりを進めていくことが不可欠であると考えています。令和5年度は「小金井市立保育園の在り方検討委員会」を設置し、保護者を始め広く市民を対象としたアンケートおよびワークショップを実施し、集中的な対話と議論によって、市立保育園の役割と在り方の検討を進めてまいります。

【新庁舎・(仮称)新福祉会館建設事業】

【新庁舎建設は、第二庁舎の賃貸借を解消することにも、市民サービスの中核を担う施設、市民の貴重な生命と財産を守るための防災拠点として首都直下型地震等に備え、一刻も早く実現すべきと考えます。(仮称)新福祉会館についても、地域共生社会を実現するための拠点となるものがあります。現設計を進めることとを基本に、市民および議会の皆様に対し、設計内容や財政の見通しのご説明に努め、事業の進捗を図ります。

【優先整備路線】

優先整備路線である都市計画道路3・4・1号線および都市計画道路3・4・11号線については、施行者である東京都に対し事業化の中止を求める要望書を提出するなど、今後も、はげと野川を守り、豊かな暮らしや文化を後世に継承していくため、適切に対応していきたいと考えております。

4 令和5年度予算の概要

令和5年度予算は、第5次基本構想の将来像の実現に向け、「ニューノーマル時代の質の改革」に取り組み、まちへの誇りと愛着(シビックプライド)を醸成し、選ばれるまちづくりを進めることを方針として編成しました。

令和5年度予算は、一般会計48億4千500万円、前年度対比19億5千700万円、4・2%の増、特別会計および公営企業会計を合わせた全会計は744億3千37万4千円で、前年

5 基本構想6政策別【自然と都市が調和した人に優しいまち】の主要施策

度対比29億9千37万4千円、4・2%の増となりました。

みんなであつこうを育んでいくため、子ども環境ワークショップや森林教育の環境啓発事業を行います。温室効果ガス排出量の削減を図るため、電気自動車などの次世代自動車の普及促進に向けた補助金交付を継続して実施します。

現在、大半の住宅が新築時に雨水浸透ますを設置しています。築年数がある住宅についてもさらなる普及を図るため、助成制度の広報活動を推進します。

循環型社会の形成への取り組みとして、野川クリーンセンターが完成し、主に燃やさないごみ、粗大ごみを積み替えた後、民間施設に搬出していきます。今後も運営協議会のご意見を伺いながら、円滑な運営に努めてまいります。野川クリーンセンターでは再生可能な家具類に補修等を施したうえで、市民へ無償譲渡するリユース事業「ゆづる輪」の試行実施を開始してまいります。令和5年度は、運用内容を検証し「ゆづる輪」の本格実施に向けて事業構築を進めます。

資源物処理施設の建築工事に着手し、地域の皆様のご理解と協力の下、令和6年度中の本格稼働をめざしてまいります。続いて、都市基盤の整備に

ついてです。武蔵小金井駅北口駅前、再開発準備組合において事業計画の素案の検討が進められています。令和5年度は、市街地再開発事業等の都市計画の進捗に向け、関係機関等との協議を進めていく予定です。地元権利者らと一緒にスピード感を持って推進していきけるよう、調整等を適切に進めます。東小金井駅北口は、都市計画道路の整備や駅前にある宅地の造成が進み、まちの形が見えてきたところと見えます。今後も土地画整理事業を着実に推進します。

誰もが安心して暮らせる、人に優しいまちづくりに関し、居住支援に係る不動産関係団体等との更なる連携体制として、居住支援相談窓口を拡充し、住宅確保要配慮者に対する相談支援を充実させます。

また、武蔵小金井駅北口商店街のムサコ通りおよび新庁舎予定地に接する緑中央通りの無電柱化を推進します。コミュニティバス「COC Oパス」については、令和5年度から2路線のルートおよび運賃体系を変更し、再編後の運行を開始します。誰もが円滑に移動でき、持続可能な公共交通の構築をめざすための地域公共交通計画を策定します。

【安心して過ごせる暮らし】 本市では、「災害に強い小金井市の実現」を図るため、消防団の充実強化および共助の主軸となる自主防災組織のさらなる防災力向上が求められます。

消防団に対する充実強化策として、出動報酬の1日相当額の新設、準中型自動車免許取得費用の助成、MCA無線機の更新等を行います。消防団員の皆様のお力を借りながら、安心して暮らせるまちの実現に取り組んでいきます。

自主防災組織においては、新規組織の結成や既存組織の充実を推進し、補助金を始め資機材の貸与や防災倉庫の設置補助を行うとともに、防災に関する講習会など、情報提供を随時行っていきます。

また、災害時に避難所となる小中学校に、1校につき10基のマンホールトイレの設置をめざします。令和5年度は、小中学校2校の設置工事を行い、災害時における環境整備を図ります。

総合防災訓練や水防訓練等の各種訓練の実施、災害対策に関する広報・啓発活動などを通じて、市民の方々の防災意識の高揚、防災行動力の向上を図ります。

本市の特徴となる数多くの魅力を積極的に発信するとともに、商工会、観光まちおこし協会、農業振興連合会などの関係団体と連携し、多様な主体が生み出す機会づくりへの支援を通して、本市の魅力に触れられる体験型・参加型イベントの実施など、多くの人が楽しむまちの実現をめざします。

【豊かなこころの子どもが育つまち】 子ども施策の策定に対し、子ども等の意見を反映させる措置が求められているため、次期「のびゆく子どもプラン